

令和２年度 第６回 座間市在宅医療推進協議会 会議録

日時：令和２年９月８日 午後６時３０分～午後８：００

場所：サニープレイス多目的室

○	松山 齊久氏	○	佐久川 拓郎氏	○	吉田 勝重氏	○	根岸 このみ氏
○	須藤 真行氏	○	富山 浩平氏	○	坂間 大介氏	○	大石 立子氏
○	吉永 耕子氏	○	石黒 宏明氏	○	筒井 すみ子氏	○	落合 純一氏
○	藤川 純子氏	○	石川 孔明氏	○	嶋崎 優氏	○	小林 孝行氏
○	野中 京子氏	事務局：小林係長、田中副技幹、千葉主事、宮下主事、板倉主事					

１ 開会

２ 会議の進め方

- ・司会進行、リーダー 須藤委員
- ・副リーダー 小林委員、石川委員、石黒委員

３ 在宅医療・介護連携室より活動報告（嶋崎委員）

在宅医療介護連携支援事業のア～クの事業区分に沿って報告する。

ア）地域の医療・介護の資源の把握事業

今年の２月で３回目、令和２年度も病院、診療所、ショートステイ等全事業所へのアンケート調査を実施した。訪問診療をやっている１４事業所のうち９か所から回答を受けた。市外の診療１８か所にも調査票を送り、１６か所から回答を得た。医療負担の調査項目についての見直しをしている。

（野中委員）

アンケート調査の項目を一部変更した内容について、リハビリパンツ代、パット代、お昼代など利用者が知りたい自己負担に関わる加算項目について追加した。来年度の医療機関向けの調査項目については、オンライン診療についての対応や介護認定に係わる主治医委意見書に関することを追加しようと検討している。

（嶋崎委員）

イ）在宅医療介護連携の課題と抽出の対応策

定期研修会のワーキング、連絡会設立準備ワーキングの二つのワーキングがあり、継続して課題の対応をしている。また、高齢者入所施設の救急対応について、昨年暮れから消防と打ち合わせをしているが、コロナ禍で中断しており、再開については検討中。

ウ）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制

在宅医療にかかわる近隣の１８病院と交流を図る目的で、訪問している。今年度は５月に厚木保健師事務所で近隣５市の入院時情報提供書を作成し、病院の情報も含んでいるため今年度は病院の情報提供ということで通知した。

また、座間市内の業種別連絡協議会の設立もこの位置づけになっているが中断している。

エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援

I C Tの活用について、10月に運用規定が出来、第一次協力事業所において運用を行っている。現在登録実績106人、事業所同士の連絡も取れる形になっており、21グループ、利用者46部屋という状況。病院との入院時情報提供書のやり取りにI C Tを利用できないか検討中。

また、昨年度ケアマネタイムを作り、今年度については2月の情報を元にケアマネポケットを作成した。利用者が事業所を選択するための資料として作成しケアマネマップも合わせて居宅介護支援事業所に配布した。

(野中委員)

市内のケアマネ、近隣市の座間市民を担当している居宅介護支援事業所のケアマネに渡ししている。これには、通所介護、地域密着デイサービス、訪問看護、訪問介護、訪問入浴から福祉用具等すべてのサービス事業所の特色、実費の金額等細かい情報が記載されている。昨年から市内のケアマネ3名にワーキングに参加してもらい、聞きたい内容、知りたい情報を検討し、1～3月に包括職員、ケアマネさん10名くらいに試行してもらい完成した。これらの更新は年1回行い、新しいものを配布していく。

オ) 在宅医療・介護関係者に関する相談支援

今年度4月以降9件の相談があった。抜粋した内容としては皮膚科、眼科の診療科の訪問診療をしてくれる診療所の有無や、退院後の在宅酸素療法の情報提供依頼があった。座間市内の46歳男性の緊急対応について厚木保健福祉事務所から連携室へ連絡があり、命にかかわるような相談内容だったため、包括に連絡をしたが、年齢から包括が動く根拠がないということで断られた。色々連絡し、最終的に座間市生活援護課の自立サポートに連絡し、対応してもらった。高齢者以外の相談の場合、個々の事例を必要な機関につなげる必要があるが、つなげるためのパイプが必要だと感じている。

(嶋崎委員)

補足として、今後のこの会議の方針としては、介護事業であり本来は65歳以上の方が対象だが、地域包括ケアシステム構築の基礎であるという位置づけもあり、65歳以上に限った事ではないというのが国の考えである。地域福祉計画の中でも、障害者や子供も含めた考え方に移行するという流れになってきており、今後の課題の一つになると考えている。

カ) 医療・介護関係者の研修

新しい生活様式の一つとしてリモート研修を検討した。テーマは昨年の延期した内容。同時にリモート研修を試行的にやってみようと計画をしている。9月18日、参加人数は30名までとし、リモート参加者11事業所20名、会場参加も設定しており5事業7名。合計27名。

キ) 地域住民への普及啓発

コロナの関係で中止し、未検討です。

ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

今年6月は厚木市が加わり会議を実施した。地域包括システムを担当する部署の方が集まっており、地域包括システムに関する話を中心であった。今後の方針的なものに関しては、情報共有が不十分であったと報告を受けている。

(須藤委員)

個々の情報をどうするかについてはどうするか。次回の議題として、検討することとする。

4 ワーキングチームより連絡事項

・介護事業者連絡設立支援チーム (小林委員)

前回の会議から今日までの間、大きな動きはない。です。ズーム等のオンラインミーティングを活用した形を検討中。環境が整っている事業所が少なく、オンライン環境の普及から行っていく必要があるかもしれない。

・座間市医療・介護連携定期研修会チーム (松山委員)

9月18日に1回目を予定している。実験的な要素を含めてオンラインでの開催を計画。残り2回は多職種連携と市民講座を予定している。

(須藤委員)

歯科医師会も理事会はズームで開催していた。研修会は今もリモート開催が多い。

5 その他

・車場問題に関する報告 (事務局)

平成26年に国民的な要望を受け、駐車許可に係わる手続きを簡略化し、平成31年に再度駐車許可の簡略化について通知が出されたという状況。座間警察で具体的な話しを聞いた結果を資料の(1)から(8)に示す。相模が丘、ひばりが丘など狭隘道路では、許可が下りないだろう。一方、団地を形成している地域は比較的許可が出やすい場合がある。警察からは路上駐車をせざるを得ない場合は、事前に申請をすることの指導を受けた。

(石黒委員)

愛知県の春日井市について、インターネットで申し込みをして、空きがあれば止める。貸す方もこの時間は貸せません、という時間を入力する。双方でインターネット上に入力ができるというシステムです。

(松山委員)

座間市の実情として狭い道路が多いので、地域でどうスペースを確保していくか、土地を貸してもらえる方法を考えてほしい。例えば、車いすのマークがついていると誰も止めないという抑止力になるが、これは介護関係車両の占有のスペースだと認知が広まるようなものが望ましい。

(石黒委員)

春日井市のケースだと、駐車場が空いているよ、という市民と利用する事業所を紐つけするシステムを作って運用しているが、コストがかかる。システムを作らず、立て看板とダ

ッシュボードのステッカーで試験的に限定したエリアでできないかと考えていたが難しい。電話連絡して台帳を作って管理するとしても、どこがやるかというところで話が止まっている。

・在宅医療・介護連携推進事業の構成について（事務局）

ア〜クの8つの事業区分が見直しされたことをお知らせ

・通所型サービスCについて（事務局）

元気な高齢者から要支援2までの方のサービス提供に関する新事業について、座間市には事業対象者が84名、認定を持っていない方が28000人強いる。介護保険課では、認定のない方に年一回郵送で体の状態を確認するアンケートを実施している。毎年800人程度の方が将来的に運動機能の低下により要支援・要介護状態に移行する可能性があるかと判定されている。週1回以上の運動習慣や外出項目に注目すると、認定がなく運動器の低下がある方は要支援1・2の方より少ない、運動・外出ができていないという状況にあることがわかる。今認定を持っていない方のうち事業対象者に当てはまる方は年々増え全体の52.7%市内に11000人いる。その方々が介護・医療を必要とするようになると需給バランスが崩れてしまうという可能性がある。

市はこれらの方向けに通所型サービスC、短期集中予防サービスの実施を検討している。事業内容は、対象者は65歳以上で事業対象者から要支援1、2、目的は生活行為を改善し社会参加につなげるところまで。教室形式で介護予防のプログラムを提供するものであり、実施期間は週一回、3か月間を予定。通所型Cを実施した場合のメリットは、機能回復が可能な高齢者が利用できる社会資源が増えること、元気な高齢者が増えることにより医療・介護の専門職のマンパワーを適切に配分できること。想定しているデメリットは包括支援センターの業務量が増えること、予算の配分上、認定のない高齢者に介護予防を普及啓発するための催しを縮小する必要があることが挙げられる。

（筒井委員）

ふれんどりいでお稽古サロンことぶきというのをやっている。運動系ではなく、フラワーアレンジメントや絵手紙や習字等の内容。毎年ギャラリーで発表しており、みんなで集まってお稽古をして、ご飯を食べて、おしゃべりをして元気になるという声が聞かれている。事業対象者の方も週1回の習い事感覚で抵抗なく参加できている。ギャラリーでの展覧会にいらした方も、興味を持ってくださる方が多く、望んでいる方が多いと思われる。

（藤川委員）

半日なのか、1日で食事がでるのか、どういうスタイルでやるのか、送迎はどうするか。

（事務局）

既存の通所サービスとは役割分担をしていきたいと考えている。まだデイサービスは少し早いかなという方、もう少しお元気な方が対象になる。1日2時間くらいの運動をすると

いうイメージであり、まずは着実に1種類の運動の講座から始めていきたい。会場への参集に関しては、これから検討したいと思います。

(須藤委員)

フレイルに関連して、オーラルフレイルという言葉がある。オーラルフレイルを発見しプレフレイルの段階でオーラルフレイルを予防しよう、それが身体フレイル予防になるという運動をしているので、一緒になにかできればと、考えておいていただきたいです。

(事務局)

運動機能向上を目指した教室から開始したいと考えているが、いずれは可能な範囲で複合型での実施も検討したい。先生方にもご意見を頂きながら進めて行ければと思っている。

以上